

指紋上よりみたる日本人の研究

第 10 編

山陽地方人（備前地方人）の指紋について

岡山大学医学部法医学教室（主任：三上芳雄教授）

草 加 宏 直

〔昭和 32 年 7 月 15 日受稿〕

緒 言

わが日本民族の民族因子が一元的でなく、多面的であるという考え方は終戦以来とみに盛んとなつた。古くはベルツが日本民族に 3 人種要素、すなわちアイヌ、満洲、朝鮮人型およびマレー、モンゴロイド型を考えたが、小金井も同様な意見をのべている。清野も混血説を支持し、その他多くの人々により日本民族の混血説がとなえられてきた。

而して日本列島は地理的に考えても太古より周囲地域との人種の交渉があつたであろうことは当然考えられるところである。その混血人体型としてはあらゆる身体的特徴から考えて原日本人、アイヌ人、南方モンゴロイド人、ツングス系人、タタール人、古北極人、満洲人、支那人、朝鮮人、ネグリート人、ミクロネシア人、インドネシア人等多数の素因が想像されている。日本列島は位置的には朝鮮にもつともちかく、これを介してさらに満洲、支那、アジア大陸につづいている。而してアジア大陸の民族は北はシベリアから南はマライ地方までつづく。一方南方民族の関連について考えるとマライ地方あるいは南支から日本に達するには海上に飛石的に存する島々を利用し、または大陸の海岸づたいにいづれも容易である。結局日本人の構成は南方からの海岸をへてきたマライ系人、大陸から朝鮮をへてきた蒙古人およびアイヌ人が主なる役割を演じていると考えられている。

以上日本人混血説にたいする諸氏の意見を

総合すると、日本人は過去において幾多の人種の混血をうけ、それが悠久の年月間に自然淘汰をうけながらもなお充分の融和をとげない状態において今日に至っていることは諸賢のみとめるところである。

さて人類学の研究は體質学的方面から、文化人類学的方面から、あるいは血液型、指紋等の頻度等からその研究も多方面にわたっている。ことに指紋については親子間の相関現象に関する研究、人種差異に関する研究、または雙生児、とくに一卵雙生児に関する研究等からそれが遺伝する形質に属することが判明してからはこの方面の人種人類学的研究が続出している。

当教室の三上教授は昭和 18 年から終戦までジャワ島に職務上在住し、従来該地方の人類学的研究はほとんど不可能の状態にあつたものにたいし現地において多数の指紋および血液型を調査された結果を中心として、これと日本人、とくに九州日本人のそれと比較してその人類学的研究を企図してきた。このうち指紋について中村および益子は北九州日本人、馴田は南九州日本人、西は種子島々人との比較について報告しているが、その結果はジャワ島インドネシア人の指紋の頻度は南九州日本人および種子島々人に近似し、北九州日本人とは大部分の指紋の頻度において頻差が存し、この点南九州日本人には多分に南方人の影響が想像され、日本人の人種人類学的研究にたいしてきわめて示唆するところが多いとのべている。また岩永、馴田および西らの A

B O式血液型の頻度においてもこの点がうかがわれ、九州日本人は南方地方人に頻度のたかいO型において北九州と南九州地方人との間に頻差が存在し、後者においてその頻度たかく、この点琉球人に接近し日本列島と南方諸地方を一連的に考察する場合、南九州日本人にたいして南方地方人の交流が考えられると報告している。

私は以上研究の一部を分担し、山陽地方人(備前地方人)の指紋を調査し、その比較結果について報告する。

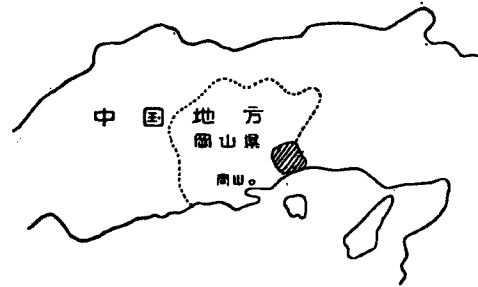
資 料

資料は岡山県の南東部に位置する岡山県和気郡の南部(第1図)に土着する男子 3,196名および女子 3,360名についての指紋であり、主として学童をえらんだ。指紋型は弓状紋(a), 甲種蹄状紋(r), 乙種蹄状紋(u)お

表・1 (♂)

指紋型	指	左	右	計
a	I	0.3±0.04	0.2±0.03	0.2±0.02
	II	1.1±0.08	1.2±0.08	1.1±0.06
	III	0.7±0.06	0.5±0.05	0.6±0.04
	IV	0.1±0.02	0.06	0.1±0.02
	V	0.09	0.06	0.07
	I-V	2.3±0.12	2.0±0.11	2.1±0.08
r	I	0.08	0.05	0.07
	II	2.5±0.12	2.7±0.13	2.6±0.09
	III	0.3±0.04	0.4±0.05	0.4±0.03
	IV	0.03	0.08	0.05
	V	0.01	0.06	0.03
	I-V	2.9±0.13	3.3±0.14	3.1±0.09
u	I	8.6±0.22	7.2±0.20	7.9±0.15
	II	7.4±0.20	6.9±0.20	7.1±0.14
	III	11.6±0.25	12.0±0.26	11.8±0.18
	IV	8.5±0.22	6.5±0.19	7.5±0.15
	V	14.7±0.28	12.8±0.26	13.7±0.19
	I-V	50.8±0.39	45.4±0.39	48.1±0.28
w	I	11.0±0.24	12.6±0.26	11.8±0.18
	II	9.0±0.22	9.2±0.23	9.1±0.16
	III	7.4±0.20	7.1±0.20	7.2±0.14
	IV	11.3±0.25	13.3±0.27	12.3±0.18
	V	5.2±0.17	7.0±0.20	6.1±0.13
	I-V	44.0±0.39	49.3±0.39	46.7±0.28

第 1 図



よび渦状紋(w)の4種類に大別した。なおすべての指紋の頻度等についてはその正確度を示すために標準誤差を算出し、統計値の比較にあたってはその差が有意性なりや否やを統計数理にしたがつて検討した。

成 績

1. 各型指紋の頻度

まづ上記山陽地方人男女における4種指紋

表 2 (♀)

指紋型	指	左	右	計
a	I	0.8±0.07	0.5±0.05	0.6±0.04
	II	1.5±0.09	1.2±0.08	1.3±0.06
	III	1.0±0.08	0.5±0.05	0.8±0.05
	IV	0.2±0.03	0.1±0.02	0.2±0.02
	V	0.2±0.03	0.1±0.02	0.1±0.02
	I-V	3.7±0.14	2.4±0.11	3.0±0.09
r	I	0.2±0.03	0.05	0.1±0.02
	II	2.3±0.11	1.6±0.09	2.0±0.07
	III	0.4±0.04	0.2±0.03	0.3±0.03
	IV	0.04	0.06	0.05
	V	0.01	0.02	0.01
	I-V	2.9±0.13	1.9±0.10	2.4±0.08
u	I	8.9±0.22	9.0±0.22	8.9±0.15
	II	7.1±0.19	8.4±0.21	7.7±0.14
	III	11.6±0.24	13.3±0.26	12.4±0.18
	IV	8.9±0.22	7.7±0.20	8.3±0.15
	V	14.9±0.27	14.3±0.27	14.6±0.19
	I-V	51.4±0.38	52.6±0.38	52.0±0.27
w	I	10.2±0.23	10.4±0.23	10.3±0.16
	II	9.1±0.22	8.9±0.22	9.0±0.15
	III	7.0±0.19	6.1±0.18	6.5±0.13
	IV	10.8±0.24	12.1±0.25	11.5±0.17
	V	4.9±0.16	5.6±0.17	5.2±0.12
	I-V	42.0±0.38	43.1±0.38	42.6±0.27

型の各指における出現頻度を表示すると表1(♂)および2(♀)のごとくである。

すなわち、男子の全指における頻度はu型48.1%±0.28%, w型46.7%±0.28%, r型3.1%±0.09%およびa型2.1%±0.08%の順となり、u型指紋は1.4%±0.39%の頻差をもつてw型指紋の頻度にまさる。女子においてはu型52.0%±0.27%, w型42.6%±0.27%, a型3.0%±0.09%およびr型2.4%±0.08%の順となり、u型指紋は9.4%±0.38%の頻差をもつてw型指紋の頻度にまさ

る。而して両性ともにu型指紋が最高頻度を示し、なかんづくu型指紋は女性に(Diff.=3.9%±0.39%), w型指紋は男性に(Diff.=4.1%±0.39%)高率を示す。aおよびr型指紋は見掛上a型は女性にr型は男性に多い。

而して山陽地方人男女の総指における各型指紋の頻度を九州各地方人のそれと比較表示すると表3(♂)および表4(♀)のごとくである。

すなわち、男子におけるu型指紋の頻度は

表 3 (♂)

地 方 名	調 査 員	a	r	u	w	報告者
山陽地方人(備前東部)	3,196	2.1±0.08	3.1±0.09	48.1±0.28	46.7±0.28	草加
北九州地方人(筑後北部)	1,363	1.2±0.09	3.6±0.16	48.0±0.43	47.2±0.43	中村
南九州地方人(大隅半島北部)	3,283	2.6±0.09	2.6±0.09	51.8±0.28	43.0±0.27	馴田
種子島々人	1,400	1.5±0.10	3.1±0.15	51.4±0.41	44.0±0.42	西

表 4 (♀)

地 方 名	調 査 員	a	r	u	w	報告者
山陽地方人(備前東部)	3,360	3.0±0.09	2.4±0.08	52.0±0.27	42.6±0.27	草加
北九州地方人(筑後北部)	1,334	2.0±0.09	2.5±0.14	53.3±0.43	42.5±0.43	中村
北九州地方人(筑後南部)	3,095	2.0±0.08	2.3±0.09	52.6±0.28	43.1±0.28	益子
南九州地方人(大隅半島北部)	3,600	3.2±0.09	2.0±0.07	55.8±0.26	39.0±0.26	馴田
種子島々人	1,500	1.5±0.10	2.5±1.27	56.0±0.41	40.0±0.40	西

3.7%±0.39%および3.3%±0.49%の頻差をもつて南九州地方人および種子島々人にまさり、w型指紋は南九州地方人および種子島々人に比べてそれぞれ3.7%±0.39%, 2.7%±0.50%の頻差をもつて山陽地方人にまさる。北九州地方人との間にはほとんど頻差はみとめられない。女子においてはu型指紋の頻度は3.8%±0.37%および4.0%±0.49%の頻差をもつて南九州地方人および種子島々人にまさり、w型指紋の頻度は南九州地方人、種子島々人に比べてそれぞれ3.6%±0.36%, 2.6%±0.48%の頻差をもつて山陽地方人にまさる。而して北九州地方人との間にはほとんど頻差はみとめられない。aおよびr型指紋の頻度においては男女とも特徴的頻差はみとめられない。

以上より考察すると、4種指紋型中uおよびw型指紋の頻度においては男女とも山陽地方人と南九州、種子島々人との間には頻差があり、山陽地方人においてu型指紋の頻度ひくく、w型指紋の頻度においてたかい。北九州地方人との間にはほとんど頻差はみとめられない。

2. 指紋配合式の頻度

つぎに山陽地方人男女の指紋配合式から出現頻度のたかい指紋配合式10種をえらび表示すると表5(♂)および6(♀)のごとくである。

すなわち、男子の指紋配合式についてはw₅配合式(14.9%±0.44%)が最高頻度を示し、ついでu₅, w_{4u1}, w_{1u1}配合式の頻度がこれにつき、女子についてはu₅配合式

表 5 (♂)

指紋配合式	左	右	計
w w w w w	12.7±0.59	17.1±0.66	14.9±0.44
u u u u u	12.2±0.58	9.2±0.51	10.7±0.38
w w w w u	8.7±0.50	6.8±0.44	7.8±0.33
w u u u u	5.3±0.39	5.8±0.41	5.5±0.28
w w u w u	4.0±0.34	5.3±0.39	4.6±0.26
u u u w u	3.6±0.33	4.2±0.35	3.9±0.24
w u u w u	3.9±0.34	3.9±0.34	3.9±0.24
u r u u u	4.2±0.35	3.4±0.32	3.8±0.24
w w u w w	2.4±0.27	4.5±0.37	3.4±0.22
w w u u u	3.4±0.32	2.3±0.26	2.8±0.20

表 6 (♀)

指紋配合式	左	右	計
u u u u u	12.4±0.57	14.7±0.61	13.6±0.42
w w w w w	11.2±0.54	12.7±0.57	12.0±0.39
w w w w u	8.7±0.48	6.8±0.43	7.8±0.32
w u u u u	6.0±0.41	5.9±0.40	6.0±0.29
u u u w u	3.7±0.32	6.8±0.43	5.3±0.28
w w u w u	3.6±0.32	5.3±0.38	4.4±0.25
w u u w u	2.8±0.28	3.8±0.33	3.3±0.22
w w u u u	3.0±0.29	3.2±0.30	3.1±0.21
u w w w u	3.7±0.32	2.4±0.26	3.1±0.21
w w u w w	2.6±0.27	3.5±0.31	3.0±0.21

(13.6%±0.42%) が最高頻度を示し、ついで w₅, w₄u₁, w₁u₄ 配合式の頻度がこれにつぐ。而して性別的に u₅ 配合式と w₅ 配合式との頻度を比較すると、u₅ は 2.9%±0.56% の差をもつて女性に、w₅ は 2.9%±0.59% の差をもつて男性にいずれもまさる。この指紋配合式中頻度のたかい u₅ および w₅ 配合式の頻度を九州各地方人のそれと比較表示すると表 7 (♂) および 8 (♀) のごとくである。

すなわち、男子における u₅ 配合式の頻度は 2.9%±0.56% の頻差をもつて南九州地方

表 7 (♂)

地方名	u u u u u	w w w w w	報告者
山陽地方人	10.7±0.38	14.9±0.44	草加
北九州地方人	12.0±0.62	15.0±0.68	中村
南九州地方人	13.6±0.42	12.6±0.41	馴田
種子島々人	14.0±0.66	13.3±0.64	西

表 8 (♀)

地方名	u u u u u	w w w w w	報告者
山陽地方人	13.6±0.42	12.0±0.39	草加
北九州地方人	15.4±0.70	11.7±0.62	中村
北九州地方人	15.4±0.45	12.9±0.42	益子
南九州地方人	17.2±0.45	10.0±0.36	馴田
種子島々人	17.6±0.70	10.4±0.56	西

人に、3.3%±0.76% の頻差をもつて種子島々人にまさり、w₅ 配合式の頻度は南九州地方人とは 2.3%±0.60% の頻差をもつて山陽地方人にまさり、種子島々人とは見掛上山陽地方人にまさる。u₅ および w₅ 配合式とも北九州地方人との間には頻差をみとめない。女子における u₅ 配合式の頻度は 3.6%±0.61% の頻差をもつて南九州地方人に、4.0%±0.81% の頻差をもつて種子島々人にまさり、w₅ 配合式の頻度は南九州地方人に比し 2.0%±0.53% の頻差をもつて山陽地方人にまさり、種子島々人とは見掛上山陽地方人にまさる。u₅ および w₅ 配合式とも北九州地方人との間に頻差はみとめられないが u₅ 配合式のみ見掛上北九州地方人にまさる。

以上より考察すると、指紋配合式中 u₅ および w₅ 指紋配合式の頻度においても南九州地方人と山陽地方人との間に男女とも頻差があり、u₅ 指紋配合式の頻度は南九州地方人にたかく、w₅ 指紋配合式の頻度は逆に山陽地方人にたかい。而して北九州地方人との間に頻差はみとめられないが、女子の u₅ 指紋配合式のみ見掛上北九州地方人にまさる。

3. w 型指紋を基準とした指紋配合式の頻度

つぎに指紋配合式を w 型指紋をもつて整理し、その頻度を表示すると表 9 (♂) および 10 (♀) のごとくである。

すなわち、山陽地方人男女における指紋配合式を 3 指以上に w 型指紋をふくむ配合式と 3 指未満のものとの両群にわけて観察すると 8.2%±0.87% の頻差をもつて後者に高率を示す。而して w₀ の頻度もつともたかく、ついで w₁, w₂ の順となり w₄, w₅ の頻度はひ

表 9 (♂)

指 紋 型	左	右	計
w5	12.7±0.59	17.1±0.66	14.9±0.44
w4	15.3±0.64	15.2±0.63	15.2±0.45
w3	15.1±0.63	16.4±0.65	15.8±0.45
w2	15.6±0.64	16.1±0.65	15.8±0.45
w1	19.1±0.69	18.9±0.69	19.0±0.49
w0	22.2±0.73	16.3±0.65	19.3±0.49
w5+w4+w3	43.1±0.87	48.7±0.88	45.9±0.62
w2+w1+w0	56.9±0.87	51.3±0.88	54.1±0.62

表 10 (♀)

指 紋 型	左	右	計
w5	11.2±0.54	12.7±0.57	12.0±0.39
w4	15.4±0.62	13.8±0.59	14.6±0.43
w3	14.0±0.60	14.8±0.61	14.4±0.43
w2	15.3±0.62	16.1±0.63	15.7±0.44
w1	20.1±0.69	20.0±0.69	20.0±0.49
w0	24.0±0.74	22.6±0.72	23.3±0.51
w5+w4+w3	40.6±0.84	41.3±0.85	40.9±0.60
w2+w1+w0	59.4±0.84	58.7±0.85	59.1±0.60

く。女子においては18.2%±0.85%の頻差をもつて後者に高率を示しw₀の頻度もつともたかく、ついでw₁, w₂, w₄の順となりw₃, w₅の頻度ひくい。これを九州地方人のそれと比較表示すると表11(♂)および12(♀)のごとくである。

すなわち、男子のw型指紋を3指以上に有する指紋配合式の頻度は南九州地方人および

表 11 (♂)

地 方 名	w0-w2	w3-w5	報告者
山陽地方人	54.1±0.62	45.9±0.62	草加
北九州地方人	52.9±0.96	47.1±0.96	中村
南九州地方人	59.2±0.61	40.8±0.61	馴田
種子島々人	59.5±0.95	40.5±0.93	西

表 12 (♀)

地 方 名	w0-w2	w3-w5	報告者
山陽地方人	59.1±0.60	40.9±0.60	草加
北九州地方人	59.1±0.95	40.9±0.95	中村
北九州地方人	58.0±0.63	42.0±0.63	益子
南九州地方人	63.2±0.57	36.8±0.57	馴田
種子島々人	63.9±0.88	36.1±0.88	西

種子島々人に比しそれぞれ5.1%±0.87%, 5.4%±1.12%の頻差をもつて山陽地方人にまさり、女子における同頻度もそれぞれ4.1%±0.83%, 4.8%±1.06%の頻差をもつて山陽地方人にまさる。而して北九州地方人との間には男女ともほとんど頻差をみとめないが、見掛上北九州地方人に頻度がたかい。逆に3指以下にw型指紋を有する配合式では南九州地方人および種子島々人にまさり、北九州地方人との間には頻差をみとめず見掛上わずかに山陽地方人にまさる。

以上より考察するとw型指紋を基準とした指紋配合式中3指以上にw型指紋をふくむ配合式の頻度は男女ともに山陽および北九州地

表 13 (♂)

民族および種族名	調 査 員	a	r	u	w	報 告 者
満 蒙 人	6,570	2.2±0.06	3.2±0.07	44.3±0.19	50.3±0.20	山本
満 洲 人	40,878	2.2±0.02	3.0±0.05	44.1±0.08	50.6±0.08	山本
北 支 那 人	10,460	2.4±0.05	3.0±0.05	45.3±0.15	49.4±0.15	山本
中 支 那 人	1,810	2.8±0.12	3.0±0.13	45.6±0.37	48.7±0.37	山本
朝 鮮 人	6,768	2.3±0.06	3.5±0.07	46.2±0.19	48.0±0.19	久保, 三宅, 田中, 西尾, 国房
北九州日本人	1,363	1.2±0.09	3.6±0.16	48.0±0.43	47.2±0.43	中村
山陽地方日本人	3,196	2.1±0.08	3.1±0.09	48.1±0.28	46.7±0.28	草加
日 本 人 (全国)	9,085	2.5±0.05	3.7±0.06	48.8±0.17	45.0±0.17	古瀬
南九州日本人	3,283	2.6±0.09	2.6±0.09	51.8±0.28	43.0±0.27	馴田
種子島々人	1,400	1.5±0.10	3.1±0.15	51.4±0.41	44.0±0.42	西
インドネシア人(ジャワ島)	2,862	1.7±0.08	2.4±0.09	54.1±0.29	41.8±0.29	三上

表 14 (♀)

民族および種族名	調 査 員	a	r	u	w	報 告 者
満 洲 人	5,996	4.0±0.08	2.4±0.06	47.8±0.20	45.8±0.20	山本
北 支 那 人	2,100	4.5±0.14	2.4±0.01	48.3±0.34	44.9±0.34	山本
朝 鮮 人	1,225	3.9±0.18	2.7±0.15	48.5±0.45	44.9±0.45	久保, 三宅, 田中, 西尾, 国房
山陽地方日本人	3,360	3.0±0.09	2.4±0.08	52.0±0.27	42.6±0.27	草加
北九州日本人	1,334	2.0±0.09	2.5±0.14	53.3±0.43	42.2±0.43	中村
北九州日本人	3,095	2.0±0.08	2.3±0.09	52.6±0.28	43.1±0.28	益子
南九州日本人	3,600	3.2±0.09	2.0±0.07	55.8±0.26	39.0±0.26	馴田
種子島々々人	1,500	1.5±0.10	2.5±1.27	56.0±0.41	40.0±0.40	西
インドネシア人(ジャワ島)	3,659	2.2±0.08	1.9±0.07	59.7±0.26	36.2±0.25	三上

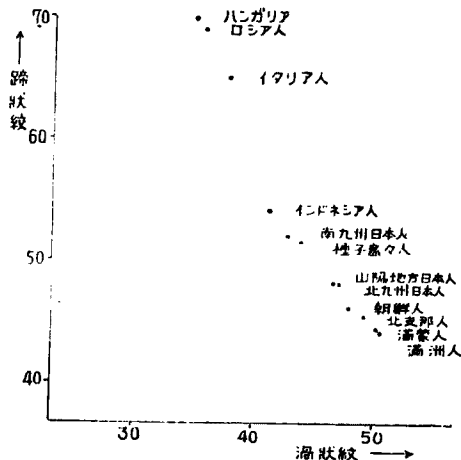
方人に頻度たかく、逆に3指以下にw型指紋を有する配合式の頻度は南九州地方人および種子島々々人においてまざる。

4. 近隣諸民族ならびに諸種族の指紋頻度との比較

本研究の目的は朝鮮および南方民族と日本民族、とくに山陽地方日本人との人種的混血関係の一端を指紋の遺伝関係においてうかがわんとするものであるから、各型指紋の頻度を近隣の代表的民族ならびに種族のそれと比較表示してみると表13(♂)および14(♀)のごとくである。

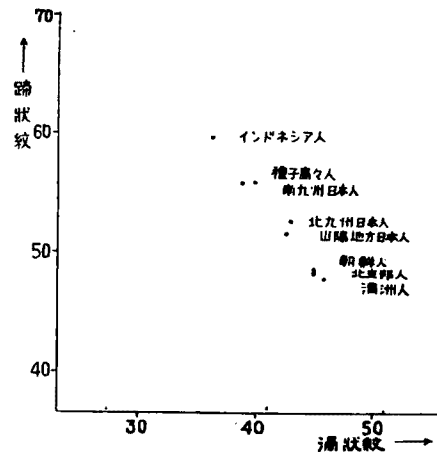
すなわち、日本列島人中、中国地方日本人に近隣する諸民族ならびに種族と私が調査した山陽地方日本人の各型指紋のうち、とくに

第 2 図 (♂)



uおよびw型指紋の頻度は男女ともに朝鮮人、ひいては支那人、満蒙、満洲人に接近しており、この関係は北九州日本人におけるとほぼ同様である。而して南九州日本人は南方民族であるインドネシア人(ジャワ島)に近似している。以上の関係について指紋分布点を作製してみると、第2図(♂)および第3図(♀)

第 3 図 (♀)



のごとくなり、その関係は一層明瞭である。また u₅ および w₅ 指紋配合式ならびにw型指紋を基準とした指紋配合式についても表15(♂), 16(♀)および表17(♂), 18(♀)のごとく、uおよびw型指紋の場合に一致する。

表 15 (♂)

民族および種族名	調査人員	u u u u u	w w w w w	報 告 者
満 洲 人	40,878	8.6±0.10	15.8±0.13	山 本
北 支 那 人	10,460	9.3±0.20	15.8±0.25	山 本
中 支 那 人	1,810	8.1±0.45	15.6±0.60	山 本
朝 鮮 人	2,677	9.2±0.39	14.3±0.48	田 中
北九州日本人	1,363	12.0±0.62	15.0±0.68	中 村
山陽地方日本人	3,196	10.7±0.38	14.9±0.44	草 加
日本人(全国)	3,893	10.3±0.34	12.5±0.37	山 本
南九州日本人	3,283	13.6±0.42	12.6±0.41	馴 田
種子島々人	1,400	14.0±0.66	13.3±0.64	西
インドネシア人(ジャワ島)	5,511	13.4±0.32	10.5±0.29	三 上

表 16 (♀)

民族および種族名	調査人員	u u u u u	w w w w w	報 告 者
満 洲 人	5,996	10.5±0.28	12.8±0.31	山 本
北 支 那 人	2,100	10.3±0.47	12.2±0.51	山 本
朝 鮮 人	514	10.0±0.94	13.6±1.07	田 中
山陽地方日本人	3,360	13.6±0.42	12.0±0.39	草 加
北九州日本人	1,334	15.4±0.70	11.7±0.62	中 村
北九州日本人	3,095	15.4±0.45	12.9±0.42	益 子
南九州日本人	3,600	17.2±0.45	10.0±0.36	馴 田
種子島々人	1,500	17.6±0.70	10.4±0.56	西
インドネシア人(ジャワ島)	3,659	17.9±0.45	6.7±0.29	三 上

表 17 (♂)

民族および種族名	調査人員	w0-w2	w3-w5	報 告 者
満 蒙 人	40,878	49.0±0.17	51.0±0.17	山 本
北 支 那 人	10,460	50.7±0.35	49.3±0.35	山 本
中 支 那 人	1,810	51.6±0.83	48.4±0.83	山 本
朝 鮮 人	5,705	53.7±0.47	46.3±0.47	山 本
北九州日本人	1,363	52.9±0.96	47.1±0.96	中 村
山陽地方日本人	3,196	54.1±0.62	45.9±0.62	草 加
日本人(全国)	3,893	57.0±0.56	43.0±0.56	山 本
南九州日本人	3,283	59.2±0.61	40.8±0.61	馴 田
種子島々人	1,400	59.5±0.93	40.5±0.93	西
インドネシア人(ジャワ島)	5,511	59.8±0.47	40.2±0.47	三 上

表 18 (♀)

民族および種族名	調査人員	w0-w2	w3-w5	報 告 者
満 蒙 人	5,996	55.5±0.45	44.5±0.45	山 本
北 支 那 人	2,100	55.5±0.77	44.5±0.77	山 本
朝 鮮 人	366	58.6±1.82	41.4±1.82	山 本
山陽地方日本人	3,360	59.1±0.60	40.9±0.95	草 加
北九州日本人	1,334	59.1±0.95	40.9±0.95	中 村
北九州日本人	3,095	58.0±0.63	42.0±0.63	益 子
南九州日本人	3,600	63.2±0.57	36.8±0.57	馴 田
種子島々人	1,500	63.9±0.88	36.1±0.88	西
インドネシア人(ジャワ島)	3,659	67.9±0.55	32.1±0.55	三 上

総括ならびに考察

さきに中村, 益子, 馴田および西は南方民族中インドネシア人(ジャワ島)の指紋を中心にその関係諸民族ならびに諸種族のそれと比較し, 南九州日本人および種子島々人は男女ともに南方民族に接近し, 北九州日本人は朝鮮人, ひいては支那人, 満洲人により接近しているとのべている. 私は日本列島中地理的その他においても多分に朝鮮との関連性の考えられる中国地方日本人中, 備前東部地方人男女 6,556 名について日本人の人種人類学的研究の一端としてその指紋を調査し, これと周囲関係諸民族ならびに種族と比較考察した結果はつぎのごとくである.

1. 山陽地方日本人として私の採取した備前東部地方人 6,556 名(男子 3,196 名, 女子 3,360 名)における指紋中 4 種指紋型の頻度は男子においては a 型 = 2.1% ± 0.08%, r 型 = 3.1% ± 0.09%, u 型 = 48.1% ± 0.28% および w 型 = 46.7% ± 0.28%, 女子においては a 型 = 3.0% ± 0.09%, r 型 = 2.4% ± 0.08%, u 型 = 52.0% ± 0.27% および w 型 = 42.6% ± 0.27% である.

2. 指紋配合式中頻度のたかい配合式は男子において w_5 (14.9% ± 0.44%), u_5 (10.7% ± 0.38%), w_{4u_1} (7.8% ± 0.33%), w_{1u_1} (5.5% ± 0.28%) 等で, 女子においては u_5 (13.6% ± 0.42%), w_5 (12.0% ± 0.39%),

w_{4u_1} (7.8% ± 0.32%), w_{1u_4} (6.0% ± 0.29%) 等である.

3. w 型指紋の配合型中 w_{0-2} 型の頻度は男女とも w_{3-5} 型よりもたかく, 男子において 54.1% ± 0.62%, 女子において 59.1% ± 0.60% である.

4. 以上の各型指紋の頻度を近隣の代表的民族ならびに種族のそれと比較すると, 山陽地方日本人中, 備前東部地方人は男女ともに u および w 型指紋の頻度において北九州日本人に類似し, 朝鮮人, ひいては支那人, 満洲人に接近している. 而して南九州日本人との間には頻差が存在し, 南九州日本人および種子島々人はより南方的であり, 琉球人ならびにインドネシア人(ジャワ島)に接近している.

結 論

山陽地方人男女 6,556 名の指紋の成績より中国地方日本人中備前地方人は北九州日本人とともに多分に朝鮮人の影響が想像され, これは日本人の人種人類学的研究にたいしきわめて示唆するところが多いものと思ふ. 而して南九州日本人はより南方民族に接近している.

稿を終るにあたり, 三上教授の指導ならびに校閲を深謝するとともに指紋採取にさいし種々御便宜をお与えくださった学校当局にたいして心より感謝します.

主 要 文 献

- 1) 古畑種基: 人類学誌, 49 卷, 6 号(昭和 9 年)
- 2) 細田勇: 日医大誌, 21 卷, 12 号(1954)
- 3) 中村正雄: 久留米医誌, 12 卷, 1~3 号(昭和 24 年)
- 4) 岩永, 白水: 久留米医誌, 12 卷, 4~6 号(昭和 24 年)
- 5) 池内, 岩永: 久留米医誌, 12 卷, 7~9 号(昭和 24 年)
- 6) 岩永, 益子, 中尾: 久留米医誌, 13 卷, 1~2 号(昭和 25 年), 14 卷, 1~2 号, 3~4 号(昭和 26 年)
- 7) 益子竜介: 久留米医誌, 13 卷, 3~4 号, 7~8 号, 11~12 号(昭和 25 年), 15 卷, 3~4 号(昭和 27 年)
- 8) 馴田浩章: 鹿児島大学医誌, 7 卷, 2~3 号(昭和 30 年)
- 9) 西要: 鹿児島大学医誌: 8 卷, 5~6 号, (昭和 32 年)

The study of the Japanese Race Based on Fingerprint Survey

(Report 10)

Subtitle : On the Fingerprint of the People Living
in the Sanyo (Bizen) Region

By

Hironao Kusaka

Department of Legal Medicine, Faculty of Medicine, Okayama University.

(Director: Prof. Dr. Y. Mikami)

1. I took 6,556 (3,196 males and 3,360 females) of the people living in the Bizen (Okayama prefecture Wake county) as examples of the Sanyo inhabitants from among all the Japanese of Chugoku to examine the frequency of the occurrence of the four basic fingerprints. And of the four prints in the case of males, a type is $2.1\% \pm 0.08\%$; r type $3.1\% \pm 0.09\%$; u type $48.1\% \pm 0.28$; and w type $46.7\% \pm 0.28\%$. And in the case of females, a is $3.0\% \pm 0.09\%$; r $2.4\% \pm 0.08\%$; u $52.0\% \pm 0.27\%$; and w $42.6\% \pm 0.27\%$.

2. When the above-mentioned frequency of the occurrence of each of the four fingerprints is compared with that of the representative one of the Japanese race, it is found that there is a certain degree of difference between the Japanese inhabitants of Sanyo (Bizen) and those living in the southern part of Kyushu in the frequency of the occurrence of the type of u and w in both cases of male and female.

From this fact we can guess that the former have bearing a resemblance to the Japanese of the northern Kyushu, the Koreans, the Chinese and the Manchurians, while the latter, to the Ryukyu people and the Indonesians (of Java).
